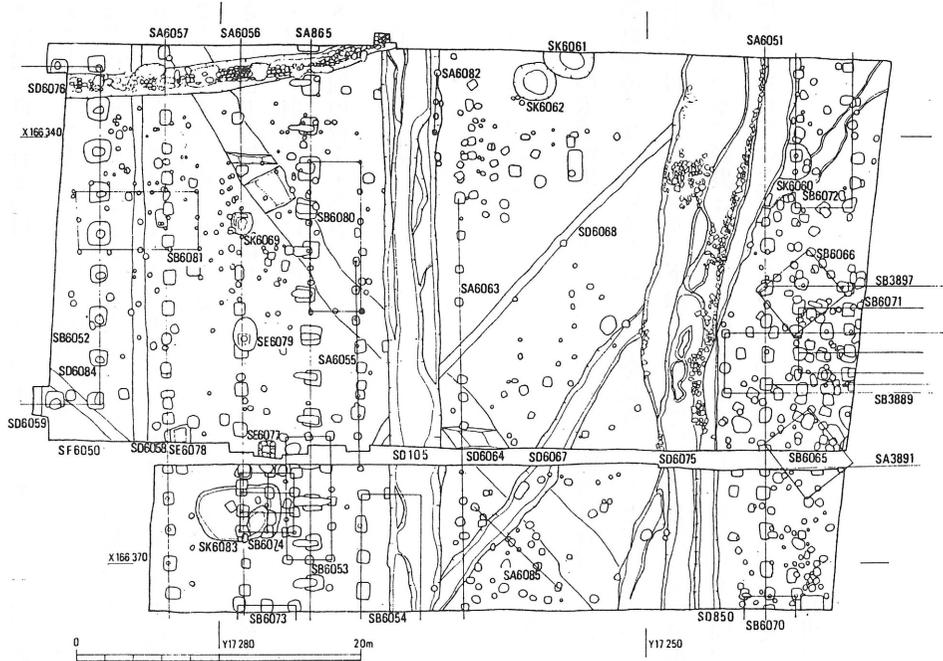


奈良・藤原宮跡

- 1 所在地 奈良県橿原市高殿町
- 2 調査期間 一九八七年(昭62)五月～十二月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 牛川喜幸
- 5 遺跡の種類 宮殿・官衙跡
- 6 遺跡の年代 七世紀末～一〇世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

藤原宮第五五次調査として実施したもので、調査地は大極殿の東北二〇〇mにあり、東方官衙地区と内裏地区にまたがる。調査は東西五七m、南北四〇mの水田で行い、調査面積は二一五〇㎡である。検出した主な遺構は、内裏東外郭を限る南北塀SA八六五、SA八六五の西の内裏内にある大規模な南北棟建物SB六〇五二、SA八六五の東にある宮内基幹水路(東大溝)SD一〇五、東方官衙の西を限る南北塀SA六〇五一、SA六〇五一とともに官衙地域を区画する南北溝SD八五〇、官衙内の東西棟建物SB三八九七等がある。木簡はSD一〇五から三五点出土した。この他に藤原宮期以前の遺構で、弥生時代の斜行溝、古墳時代の斜行溝・掘立柱建物・土墳、七世紀代の掘立柱建物・掘立柱塀・道路・素掘溝・土墳、藤原宮以



第55次調査遺構図

後で、奈良時代の掘立柱建物・掘立柱塼・素掘溝、平安時代の掘立柱建物・掘立柱塼・石組溝・素掘溝・井戸等を検出した。

遺物は、木簡の他に土器（縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・施釉陶器・製塩土器・墨書土器）・土馬・陶硯・瓦（軒瓦・丸瓦・平瓦・熨斗瓦・隅木蓋瓦）・斎串・銭貨（万年通宝・隆平永宝）・金属製品（帯金具・刀子・鉈）・石製品（砥石・紡錘車・管玉・有孔円盤・石鏃・剣片刃器）・ガラス玉などがあるが、多くはSD一〇五や平安時代の溝からの出土である。

今回の調査により、内裏内に大規模な建物があることを確認した。当調査地は平城宮の東外郭官衙地域に相当する場所であり、同様の性格が考えられる。また、東方官衙の西限区画施設を確認したことにより、以前の調査と合わせて、この官衙ブロックの規模がほぼ東西六六m、南北八八mと推定できることとなった。

木簡の出土したSD一〇五は、当調査地の北で一九六六・六七年に奈良県教育委員会により、南で一九七一年に奈良国立文化財研究所の第四次調査により確認しており、木簡も多数出土している。今回の調査では南北四〇mを検出し、これまでで最長の調査規模であったが、木簡は少なかった。溝幅は四m、深さ〇・八mで、堆積層は三層に大別でき、上層の暗褐色粘質土には遺物が少なく、中層の暗灰色粘質土には木炭・土器・瓦を多く含む。中層の下面に木片を含む層があり、その中から木簡が出土した。下層の暗灰色粗砂層か

らは土器が多量に出土した。

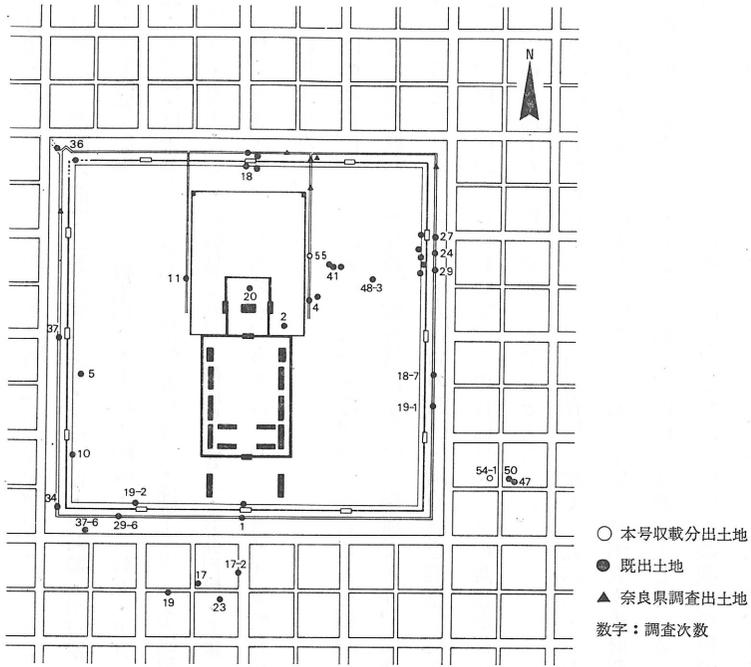
8 木簡の釈文・内容

- | | | | |
|-----|--|-----------|-----|
| (1) | 「 <small>奈良里</small> 依治郡蝦 <small>ノ</small> 」 | 117×32×4 | 081 |
| (2) | 「 <small>五カ</small> 中 <small>ノ</small> 本」 | (73)×17×4 | 081 |
| (3) | 「 <small>樹葉</small> 緑 <small>ノ</small> 」 | | 091 |
| (4) | 「夏 <small>ノ</small> 鯨」 | 107×12×3 | 051 |
| (5) | 「 <small>上カ</small> 評和佐里 <small>ノ</small> 」
・「 <small>郡</small> 方俵 <small>ノ</small> 」 | 108×24×3 | 011 |

三五点の木簡のうち二七点は削屑で、中には直接接続はしないが同一木簡の断片とみられるものもある。

(1)の依治郡は隠岐国隠地郡に当たるとであろう。平城宮内裏東大溝出土木簡の中に「郷カ 役道郡奈具ノ」と記したものがあがるが、奈良時代の木簡では隠地郡は「役道郡」と表記するものが多く、「依治」は「役道」に通ずると思われる。

(5)の和佐里は『和名抄』に相当の郷がない。「上カ 郡ノ方」は人名であろうか。



藤原宮木簡出土地点略図